

IN THIS ISSUE:

Hot Issue

2013年国連南南協力エキスポに JICA代表者が出席

10月28日から11月1日までの5日間、2013年国連南南協力エキスポが、ケニアの国連ナイロビ事務所にて実施されました。2008年に本エキスポが始まって第6回目となる今回、初めての途上国、そしてアフリカ大陸での開催となりました。

[READ MORE](#)



国連ナイロビ事務所(ケニア)



Review

国連南南協力エキスポ2013に向けた南南・三角協力に関する冊子が発刊

国連南南協力事務所(UNOSSC)と国連環境計画(UNEP)との協力で「グリーンエコノミー」に焦点を当てた南南・三角協力の冊子『Tackling Global Challenges Through Triangular Cooperation: Achieving Sustainable Development and Eradicating Poverty Through the Green Economy』が、JICA研究所から発刊されました。

[READ MORE](#)



Review

「アフリカにおける暴力的紛争の予防」研究プロジェクトの成果が書籍として発刊

JICA研究所の「アフリカにおける暴力的紛争の予防」プロジェクトの研究成果が、***Preventing Violent Conflict in Africa: Inequalities, Perceptions and Institutions***の題目で、書籍として2013年10月18日に英国のパルグレイブ マクミラン社より発刊されました。

[READ MORE](#)

2013年国連南南協力エキスポにJICA代表者が出席

10月28日から11月1日までの5日間、2013年国連南南協力エキスポが、ケニアの国連ナイロビ事務所にて実施され、2008年に本エキスポが始まって第6回目となる今回、初めての途上国、そしてアフリカ大陸での開催となりました。

10月31日には、「南南・三角パートナーシップとポスト2015年開発アジェンダ」と題してJICA、国連南南協力事務所(UNOSSC)および国連環境計画(UNEP)の共催によるハイレベル会合が行われ、JICA研究所より、これまで南南・三角協力の研究に携わってきた加藤宏所長(JICA理事)と本田俊一郎研究員が出席しました。

ハイレベル会合の冒頭で開会のスピーチを行った加藤所長は、三角協力が今後、さらに推進されるべきであると述べました。特に、開発に有用な知識や経験は、先進国や途上国のなかでも中進国のみが保有しているわけではなく、小国あるいは貧困国といわれる国々にも豊富に存在していることが経験から明らかであり、そのような貴重な資源の途上国間での共有を促進するためにも、三角協力が重要な役割を果たしえることを強調しました。また加藤所長は、今年のエキスポのテーマである「グリーンエコノミー」に焦点を当てたJICA研究所による三角協力研究レポート「[Tackling Global Challenges Through Triangular Cooperation](#)」と、JICAとUNOSSCおよびブラジル国際協力庁(ABC)の三者で共同実施した、南南・三角協力の運営・実施管理能力強化事例に関する調査レポート「[Enhancing Management Practices in South-South and Triangular Cooperation](#)」の両成果物を紹介しました。



加藤所長(前列左から2番目)

ハイレベル会合の「Capacity Development in the Management of South-South and Triangular Cooperation」と題する第2セッションでは、本田研究員の進行で、南南協力実施国(Pivotal country)による開発協力実施能力の強化を中心に活発な議論が展開されました。さらに最後の第3セッションでは、「South-South and Triangular and the Post-2015 Development Agenda」のテーマで、ポスト2015年の開発アジェンダに、いかに南南・三角協力が貢献できるかについての発表と議論が行われました。

また、同日昼に国際農業開発基金(IFAD)と共催したパートナーシップ・フォーラム「South-South and Triangular Cooperation for Impact at Scale: Towards a Community of Practice and Learning Alliance」に加藤所長が再び登壇し、2008年の組織統合によって、有償・無償資金協力や技術協力を一元的に実施できる組織となったJICAにおいて、スケールアップへ向けた基礎が確立されつつあるが、なお残る課題に対して様々な努力を重ねていることなどを紹介しました。

今年の南南協力エキスポでは、JICA研究所が国際援助協調企画室を含むJICA本部の事業部門と密接に連携しながら、昨年に引き続きハイレベル実務者会合の共催や環境分野を中心とするJICAの南南・三角協力の取り組みを紹介したことで、南南・三角協力に対する日本、そしてJICAのプレゼンスを示しただけでなく、今後のより良い南南・三角協力の実現へ向けた知的貢献を行うことが出来ました。



本田研究員(前列左)

国連南南協力エキスポ2013に向けた南南・三角協力に関する冊子を発刊

2012年11月に刊行された『Scaling Up South-South and Triangular Cooperation』に引き続き、「グリーンエコノミー」に焦点を当てた南南・三角協力の冊子が、国連南南協力事務所 (UNOSSC) と国連環境計画 (UNEP) との協力によりJICA研究所から発刊されました。本冊子『Tackling Global Challenges Through Triangular Cooperation: Achieving Sustainable Development and Eradicating Poverty Through the Green Economy』は、三角協力が、途上国のグリーンエコノミーの達成にとって有用なアプローチの1つであることを提示しています。

この冊子は、南南・三角協りに携わるJICA関係者だけでなく、海外の実務家や専門家も含めた国際チームによる共同事例研究の成果をまとめたもの

であり、パート1と2から構成されています。パート1では、「三角協力の概念と実践」として、環境に配慮したグリーンエコノミーや持続的開発を含む、グローバルイシューの解決にむけた南南・三角協力のあり方、アプローチや実施メカニズムなどについて議論しています。パート2では、分野別の事例を取り上げ、気候変動緩和策、生物多様性保全、ICTも活用した理数科教育分野での三角協力、さらにキャパシティーデベロップメント (CD) やスケールアップの過程における三角協力の活用などを紹介しています。

本冊子は、2013年10月28日から11月1日にかけて、ケニアの首都ナイロビで開催された2013年国連南南協力のエキスポでも配布されました。



"Tackling Global Challenges Through Triangular Cooperation: Achieving Sustainable Development and Eradicating Poverty Through the Green Economy" (JICA研究所)

「アフリカにおける暴力的紛争の予防」研究プロジェクトの成果が書籍として発刊

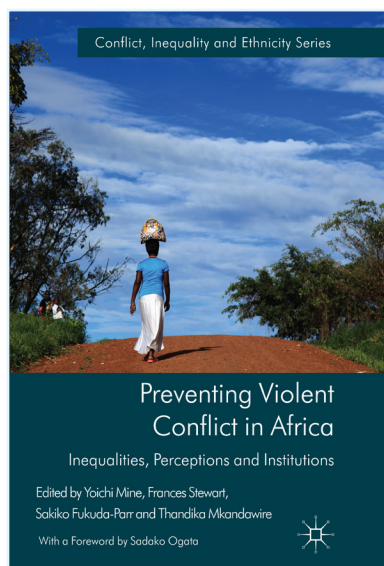
JICA研究所の「アフリカにおける暴力的紛争の予防」プロジェクトの研究成果が、**Preventing Violent Conflict in Africa: Inequalities, Perceptions and Institutions**の題目で、書籍として2013年10月18日に英国のパルグレイブ マクミラン社より刊行されました。

本研究では、アフリカでの暴力的紛争の要因を「構造」と「プロセス」の視点から分析してきました。具体的には、定量的な分析と定性的な調査を組み合わせながら、水平的不平等(Horizontal Inequalities: HIs)、人々の意識、政治制度という3つの要因の相互作用と、これらの要因が国の安定性と紛争リスクに与える影響を分析し、開発実務者や政策立案者に向けた提言を行っています。

研究を通して、HIsが暴力的紛争にとって重要な要因であり、特に政治・経済・社会という複数の側面で同じ不平等がある場合に深刻なリスクとなること、人々の主観的な認識は客観的なHIsとは必ずしも一致せず、特に政治的に不利な立場に置かれた集団は自らの集団の社会経済的地位を客観的

な水準より低く認識しやすいこと、などが判明しています。また、フォーマルかインフォーマルかを問わず、主要な集団を幅広く包含する制度がガバナンスの安定のために重要であることも指摘されています。

本書籍は、この国際共同研究の代表である**峯陽一**客員研究員(同志社大学教授)と、アドバイザーのフランシス・スチュワート名誉教授(オックスフォード大学)、福田パー咲子教授(ニュースクール)およびタンディカ・ムカンダウィレ教授(LSE:ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)の4名による共同編集となっています。JICA研究所からは**峯客員研究員**が、総論、政治制度分析、および南アフリカ・ジンバブエにおける事例分析、**片柳真理元**主任研究員が政治制度分析と政策提言、**三上了**主任研究員が政治制度分析や主観的な認識と客観的なHIsの計量分析の章を、それぞれ共著している他、**武内進一**元客員研究員がルワンダ・ブルンジ事例、**笹岡雄一**元上席研究員がウガンダ・タンザニア事例(共著)の執筆を担当しています。



Preventing Violent Conflict in Africa: Inequalities, Perceptions and Institutions
(パルグレイブ マクミラン社)